

# 長野県松本あさひ学園福祉サービス評価委員会報告

日時：平成 25 年 3 月 6 日（水）

午前 10 時から 11 時 30 分

場所：松本あさひ学園治療棟心理治療室 2

## 1 開 会

## 2 あいさつ（工藤所長）

開設時から 2 年経過したが、施設運営は概ね順調である。入所児童は、現在 28 名で、定員 30 名に対し 93% である。通所児童は 5 名で、定員 5 名に対し、100% となっている。

国は、社会的養護施設について、第三者評価は 3 年に 1 回以上、自己評価は毎年実施を義務づけたところである。当学園では、今年度、自己評価を行い、来年度は第三者評価を受審することとしている。学園としては、当委員会によるサービス評価と第三者評価等を通じ、学園の透明性と児童へのサービスの向上を図ってまいりたいと考えている。

## 3 会議事項

議長：金岩委員長

### (1) 平成 24 年度の事業報告（事業報告書による）

昨年度、委員から質問があったアフターフォローについては、自己評価の項目にも同様の項目があり、「退所後何年経っても施設に相談できる。」ということなど、今まで口頭でしか伝えていなかったが、今後は、退所時に、学園や相談機関の連絡先なども含め文章で伝えるようにしていきたいと考えている。

また、学園として、退所後の地域における関係者会議等には積極的に参加しているところである。

### 【質疑】

#### ア 質問（武田委員）

子どもの権利擁護が大切と報告があった。CAP の導入が昨年度はあったようだが、今年度はどうだったのか？

（小口係長）

児童へのワークショップは行わず職員研修のみ行った。児童に導入しなかった理由は、入所児童への刺激（具体的には、成育歴に踏み込むこと）が懸念されるということによる。今後については、検討していきたい。

#### イ 質問（岩田委員）

嗜好調査の結果で、食事に対して「ふつう」という意見が 58% ということで、委員の所属する施設（松本児童園）の子ども達より低い結果となっている。給食が外部委託とのことであるが、以前（直営のとき）と比べてどうか？財政面のコストダウンという点はわかるが、外部委託の良いところ悪いところを聞きたい。

また、お願いがある。今年度学園から1名の児童を受け入れたが、良い見守り支援をしてもらったことで、1年落ち着いて生活できている。松本児童園の行事への参加もできるようになってきた。高校卒業もできそうである。そういった中で、今いる児童園の子どもを通所生として利用させてほしい。そして、今後も学園との関係を持っていきたい。同じ松本地区の施設として職員との交流もしていきたい。学園の支援のノウハウも勉強させてほしい。

(岡村次長)

給食の民間委託のメリットは、コストダウンにあると思う。

課題としては、直営時は問題があると直接話ができて、すぐに改善に結びつけることができたが、民間委託になると改善には時間がかかるように思う。そのため、委託業者とは定期的に会議を開いたり、毎日、栄養士が調理のスタッフと連絡を取り合うなどして、改善に向けた取り組みを行っている。

(工藤所長)

支援の継続性が大切と考えている。今年度も1名の児童をお願いする予定であるが、アフターケアは大切に、資料等も用意し連絡を密にしている。今年度から二重在籍が可能になったことから、ご意見のとおり松本児童園とは密接に連携を図っていきたい。

また、当学園も開設して2年が経過し、発達障害児支援のスキルも向上してきているので、松本児童園等近隣の児童福祉施設とで、ケース会議・勉強会などを行い、ネットワークを広げていきたいと考えている。医師の関係についても、要請があれば専門的アドバイスもできるので、声をかけて欲しい。

## (2) 意見交換

### ア 意見（武田委員）

学園への措置では松本児相からの措置が一番多い状況である。通所については、受け入れてもらえる施設は学園のみなので、連絡を密にしていきたい。専門的支援を受けられるところなので、親も安心している。児相では、虐待のケースについて、親の問題を表には出さず、児童の問題として親に措置を納得させるようなところもある。きちんと親の問題も明確にして進めていきたい。

### イ 意見（中沢委員）

親との意思疎通、歩調を合わせられるか、家族支援は大切であると考えている。一方で、親を支えることは容易なことではない。松本地域にノウハウを含め色々なことを発信して欲しい。

### ウ 意見（深井委員）

第三者委員の研修に参加させていただきありがたい。普段からの施設との関わりを大切にしたいと思った。

お手玉同好会で、ボランティアとして参加させてもらっている。情緒障害児を理解できず、ボランティア同士の日常会話が、「けんかに聞こえた。」と児童から言われたとのことで、配慮しなければいけないと思った。ボランティアを行っていく上で、要望を言って欲しい。ボランティアの仲間も賛同してくれており、今後も関わっていきたい。

エ 意見（岩田委員）

ほほえみ祭に参加したところ、松本あさひ学園から松本児童園に移行してきた児童が、普段見せない表情で過ごしていた。児童にとって、松本あさひ学園が安心・安全な場所だったのだろうと感じた。松本児童園では、その児童にまだそういった表情は見られない。彼の表情を通し、（松本あさひ学園職員が）相当努力して接していたのだということを思った。

オ 意見（福澤委員）

あさひクラブ、行事等、あさひ分校は学園と協力して行ってきた。子どもの支援について密に情報交換している。児童が他施設に行っても、連携が取れていることが大切と思う。

カ 意見（金岩委員長）

学園と色々なところで交流させてもらっている。文化祭等、地区がコーディネートしてもっと参加して欲しいと思っている。学園の所属している地区の行事でも、「三九郎焼」は参加してもらったが、今後もよりコーディネートをしていきたい。

（工藤所長）

松本児相については、近くて密接な関係にある。地域貢献として、通所は大切だと思っている。あさひ分校との連絡会の中でも、保護者・児童への動機付け、入所の目的等を入所時に明確にした方が支援がしやすいとの話があり、今後も意見交換等、連携を密にしていきたいと考えている。

支援センターには、通所の児童がたいへんお世話になった。家族支援は大切であると考えていて、今すぐにはノウハウの発信には至らないかと思うが、学校・保育園等の役に立ちたいと思っており、将来的な課題としたい。

深井委員には、ボランティアとしても来所いただいているが、子ども達への対応が難しい点があるかと思うので、基本的なことはお伝えするようにしていきたい。また、「開かれた学園づくり」ということで、ボランティアについては、より一層推進してまいりたい。

松本児童園については、お互い同じ児童福祉施設ということで、連携をより深めてまいりたい。

全国情緒障害児短期治療施設の関東ブロック研修会があり、なかなか学校との連携が上手くいかないという施設が多い中、学園とあさひ分校は良い関係ができているとの評価をいただいた。あさひ分校には、引き続きよろしくお願ひしたい。

4 閉 会